

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里—静岡与—(1階、2階 合同)		
所在地	静岡市葵区与—2丁目5—19		
自己評価作成日	平成24年12月17日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2294200858-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2294200858-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5—8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にありホームの前では川が流れ鴨が8羽程泳いでいたり、その上を白い鳥や雀がすいすい飛び回って散歩道としてはとてもどかな良い風景が見られます。それ以外に5分程の場所に「こころの医療センター」がありとても広い庭なので雨天以外はここまで散歩して歌ったり体操をしたりしています。  
少し遠出をすると大きな公園が2か所ありそこでは幼稚園児が遊んでおりお話をしたりして触れ合いを持っております。最近はボランティアや地域の学校との触れ合い等行事をなるべく多く持つよう努力しております。御家族様より入所された時より元気になられているとおっしゃって頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療センターや保育園などの地域資源を擁する新興住宅地に事業所は立地しています。職員間でも挨拶慣行を心掛け、また散歩も毎日のように取り組んでおり、近所の皆さんとは気軽に立ち話をする関係ができています。どんど焼きなど地域の行事に誘ってもらえていて、町内運動会には利用者の椅子が用意され、小学校の学区探検、中学校の福祉体験を昨年に引き続き受け入れて、利用者も児童もお互いに顔を覚えていたという嬉しいエピソードもあります。地域の防災訓練においては数百名余の地域住民が事業所の駐車場に集まり、地域の集合場所として定着しており、必要な事業所として根づきつつあることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」という理念に基づいて職員はもちろん利用者様にも生き生きとした生活が出来るようにケアしている。	理念を具体的に反映させる手立てとして、「職場の教養」という冊子を活用しています。朝の申し送り、冊子のなかの「今日の心がけ」を読み上げ、一人ひとりの軸として、また気持ちを一つにするものとして役立てています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中でゴミ拾いしたり地域の小学校・中学校の施設訪問の受け入れ、町内会の行事には参加している。	家族をほかの事業所に預けている近所の人から「ここはいつも散歩にでていいね」との声掛けをもらったり、町内運動会に利用者の椅子を用意してもらえたりなど、事業所の日頃の小さな努力の積み重ねが反映した、多面的な関係づくりが視えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等には利用者様が出来る範囲で参加させて頂きボランティアの受け入れ等も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様のご家族等交え参加者の意見は運営していく上で必要であるので取り入れている。	管理者とケアマネジャーの交代などもあり、隔月開催には至っておりません。地域包括や自治会長宅にも直接出向いて参加をお願いしていて、今後の定期開催に向けた準備を着々と進めています。最近関係のできた交番のお巡りさんなどメンバー案も豊富にあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との担当者とは連絡を取り特に生保担当者とは積極的にお話させて頂く機会を設けている。	地域包括とは管轄の包括以外の職員とも連携ができており、紹介で入居の利用者とドライブがてら挨拶に立ち寄ったりと、フレンドリーな関係にあります。担当包括には運営推進会議の案内と報告も毎回届け、事業所の状況を気にかけてもらえるなど、顔なじみとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行ってはいけない事は常々伝えており身体拘束がどれ程ご本人、御家族に負担を及ぼしているかを話し合う機会を設けている。	管理者やケアマネジャーが気がついたことは都度注意し、また定例会議でも話し合い、克己する仕組みがあります。本部でも研修室を立ち上げ、本件に関する研修が始まり、今後も定期的かつ段階的な教育活動がおこなわれる予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会、朝の申し送り時等、ニュース等話題にして絶対してはいけない事と話し合い防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは何名か利用されていまして関係者とはよく話し合っており又、これからの為にも活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては契約書・重要事項説明書に利用者様、ご家族に十分説明を行い疑問点、質問等伺いご理解いただいてから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族のご意見、要望は必ず丁寧にお聴きするようにしている。又内容によっては職員に必ず通達している。	支払いを引き落としにせず、月に1回は面会に来てもらえる工夫がみられます。面会は比較的多く、管理者は終日対応に追われることもあります。直接メールで「本日も行きます」という知らせ届くこともあり、また家庭内の相談もあるなど、頼りにされていることが伝わります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見要望は常に聞き月一回の会議で意見をまとめ管理者は代表者に要望を提出している。	管理者から発言の少ない人にはふり、会議ではまんべんなく発言してもらうようにしています。また、運営に関する職員意見は管理者が本部に進言し、実現に向けて努力していることもいくつかの事例から覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、勤務状況を評価し社員表彰式を行ってやりがい、向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部に研修室がおかれ順番に研修を受けている。又、外部研修も出来る限り提示し勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、地域の交流会等で相談、意見交換をしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り利用者様に声掛けをして対話し困っている事、要望等聞く様にして安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との要望等伺う為に必ず時間を設け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等やアセスメントを作成して必要としている支援を提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬を気持を忘れず一人ひとりの役割を持って暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人は勿論ご家族様も大切である気持ちを忘れず接し方にも失礼のないよう良い関係を持つよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族様には馴染みの人や大切にされてきた人にも気軽に来て頂くようお願いして支援に努めている。	居室担当が毎月「ご家族への手紙、を手書きし、遠方の家族にも様子が届いています。職員の言葉遣いや挨拶への指導に努め、訪問しやすい事業所としていて、親戚や友人の訪問も頻回にあります。以前からの習慣として宗教新聞を取り寄せたり、ヤクルトを毎日飲む人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様と職員の輪を作り楽しく談話してその中で利用者様同士の関わりが出来るよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族様の関係はとても大切にしてるので必要に応じて相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望等なるべく聞いて困難な場合は本人本位に検討して自立支援にする様努めている。	利用者の訴えなどは経過記録に事実をそのまま記載し、毎日の生活での発語を大切にしています。そのため、家族に内容を伝えると「初めて知った」ということもあるとのこと。食事介助でも本人の「お腹がいっぱい」という意向を大切に、甘味飲料を代用する様子を視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等多くの情報収集を行い職員間で共有し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送りや介護記録、連絡帳等情報収集を共有して把握し一人ひとりのケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議、カンファレンス、でご本人、御家族の要望により意見交換を行い介護計画作成をしている。	居室担当が書き出したものをケアマネージャーが収束し、プラン化しています。話し合いは職員間でおこなわれていますが、家族の合意は必ず得るようにしています。プラン内容にやや細やかさが足りないことが課題と考えており、今後はセンター方式の一部を取り入れる予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の経過記録表、バイタルチェック表等気付いた点を記入して職員間で情報を共有し毎日の申送りで見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり個別のニーズに対応して買い物や通院、娯楽等の支援を行い柔軟に提供するようになっている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで出遅れておりましたが地域包括支援センターや町内会会長宅に伺い運営推進会議に参加をお願いして情報交換をしている。これからは毎回来て下さるとのお話を頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望は大切にしておかかりつけの医師とは常に連携を図りご家族様には報告をしている。	訪問看護が週2回、協力医の往診も月2回あります。在宅の頃からのかかりつけ医の往診がある利用者もいます。条件を問わず、受診支援の大半を管理者が担当し、情報の一元化を図っています。職員間での声掛け、本人前での読み上げで誤薬防止にも努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に週2回来て頂きバイタルチェック他身体上の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医師にはその都度連絡を取り情報交換をして頂いたり病院関係者とも連携を取ってご家族にも安心できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつあるご利用者様には訪問医師やご家族と相談をしながら全員で共有して支援していく。	看取りに取り組む考えはあり、実績も1例あります。携帯番号も教えてくれ実質24時間対応の協力医は、利用者の入院先にも説明に立ち寄ってくれるなど、事業所の安心に繋がっており、看取りにも協力的です。要望に応えるためにも、書面整備や職員教育を今後の課題としています。	職員教育も含め、仕様書など書面整備に取り組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応については申し送り時にその都度説明をしているがまだ身についているとは言えないのでこれからは定期的な実践をつけていくようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っており対応等訓練してその後必ず反省会を行っている。又地域の防災訓練にも駐車場を利用して頂き参加している。	年2回の防災訓練では水消火器を使用するなど、実践的な取り組みがみられます。1階掃き出しの窓は、避難しやすい状況にあります。地域の訓練においては事業所が集合場所となることが定例化の運びで、本年も地域住民数百名が事業所の駐車場に集まりました。	地域の人も参加したくなるよう、さらに実践的な訓練を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人間の尊厳」も常に話題に入れ言葉のかけ方については厳しく注意しプライバシーを損なわない様に努めている。	名字で呼びかけるようにしていますが、本人の希望があれば臨機応変に対応しています。利用者に配慮したアプローチをする職員に他の利用者も寄り添い、伴に見守る様子から、日頃の心ある関わりが覗えました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューを決める際一緒に考え希望の物を入れたり外出先を決める際も行きたい場所を言ったりしてご本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は規則に従っている所もあるが殆ど一人ひとりのペースを優先し職員の都合を優先しない事を目標に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者様の担当者がその方と相談をしながら身だしなみやお洒落を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付け等は可能な方には声掛けをして楽しみながら出来るように支援している。	メニューは利用者に聞くなどして、その日にある材料で季節感も考慮し作っています。調理が苦手な職員もいて、バランスの良いメニュー構成へと、管理者が主になり支援をおこなっています。たこ焼き機を使った手作りおやつは好評で、クリスマスケーキは利用者も参加して盛況でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量等記録を毎食後各利用者様ごとに記入してそれに寄り体調変化を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず声掛けをして口腔ケアをして頂く。利用者様によっては介助して行う。又夕食後は義歯をお預かりし洗浄、保管している。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄パターンを把握しトイレ誘導して排泄して頂く様に心がけている。オムツの使用しない様に支援している。	なるべくトイレでという方針で、時間パターンを把握して誘導に取り組んでいます。気持ちの良さも大切にしており、家族の協力も得て日中は布パンに切り替えています。家族の経済的負担の軽減も重視しており、消耗品の使用頻度や方法についての検討も取り組みの一環としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供するように心がけ食事メニューには根菜、繊維質の材料を取り入れるようにしている。トイレ誘導の際は腹部マッサージをするよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を基本としているがご本人の意思でそれ以上希望のある方には入浴して頂く。他の方は出来る限り足浴を行っている。	週3回程度の入浴をめやすにしていますが、湯は毎日はいって、希望があれば毎日入浴できます。最近足浴+もみほぐしも導入しています。隣近所の迷惑にならないか心配になるほど、大きな声で歌を楽しむ人もいます。ゆずなど季節のお風呂にも取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に傾眠されている方には体調を考え居室で臥床して頂いたり冬の夜間帯は湯たんぽを入れ温めてから入床して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては特に気を配り配薬、服薬時には当日勤務の職員何名かで確認、利用者様にもその都度確認して服薬して頂く。服薬によって症状に変化が出た場合は直ぐ報告するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様を日々よく観察をして嗜好品や楽しみを把握して生活の中に取り入れ気分転換につなげるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は一日の日課としていて雨天以外は行っている。但し強制でないのでその日の希望者のみ出ている。他にも買い物等一緒に行って頂いたり気分転換にドライブに行ったりする。	近くの公園や医療センターの庭への散歩コースが定着して、公園には児童も訪れるため、楽しみのひとつとなっています。川面に鴨をみつけ、その戯れに話材もでて、自然豊かな周囲の環境を堪能しています。広野公園、日本平動物園などドライブや外食に出掛けています。	

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持していないが希望者にはご家族と相談をして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する利用者様にはご家族承知の上で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時の写真を貼ったり絵を飾ったり時には花を飾ったりして利用者様同士でそれを鑑賞し合ったりしている。	夜間のトイレにはスポットライトがあたり、廊下の足元にもライトがあるなど、安全面に十二分の配慮がある空間です。調理の音がこぼれ、匂いが行き渡る対面キッチンからは職員が全体を見渡せ、壁にはセンスのよい絵画や思い出の写真などが掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士食後などの談話ができるようテーブルや椅子の置き方を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談をしてご本人が今まで使い慣れた物や親しまれている物を必ず取り入れるようにして安心した生活ができるようにしている。	エアコン、カーテン、クローゼットが備え付けられています。全体の持ち込みは少ないものの、仏壇や筆筒などがあり、それぞれ好みの形を成しています。どんなに寒くても、朝の空気の入れ替えをおこない、換気を徹底しており、清掃も利用者と職員とで一緒に取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面台等わかる様に絵をつけたりして迷うことなく自立した生活ができるようにしている。		